



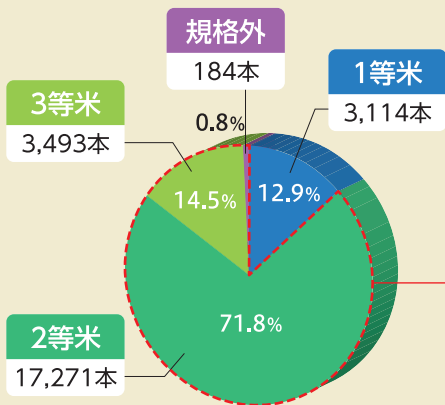
令和5年産米の報告

令和5年産米の集荷・買取数量 **24,062袋 721,860kg** (11月13日現在)

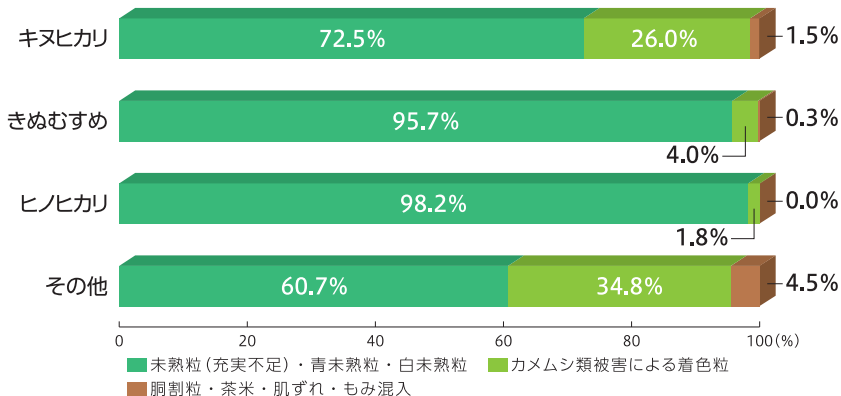
令和5年産米のJA買取分の等級割合は下図の通りです。

各等級の割合は、1等米は12.9%、2等米は71.8%、3等米は14.5%となりました。本年は昨年と同じく大きな台風被害やウンカ被害が少なく、さらにカメムシの被害も減少しました。しかし連日の高温や水不足により、白未熟粒や充実不足による未熟粒が目立つ結果となりました。

検査数量中の
1等、2等、3等、規格外米の割合



2等米以下に格付けされた理由の割合



白未熟粒の対策

白未熟粒とは…?

出穂後の穂が実る時期に高温が続くことで登熟が不十分になり、米の中にデンプンが上手く蓄積されず隙間ができ、光が乱反射することによって米が白く濁って見えるものです。

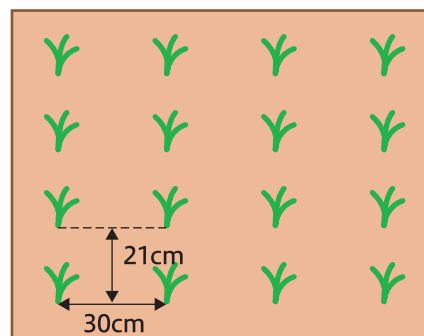
POINT 1 株間を調整しましょう

白未熟粒は極端に疎植や密植にすることで発生しやすくなります。白未熟粒の発生が少ない栽植密度は、坪あたり50~60株程度です。田植え機の設定を株間**20~22cm**に調整しましょう。

植付株間と栽植密度の関係

株間 (cm)	栽植密度 1㎡あたり (株)	栽植密度 坪あたり (株)
22	15.2	50.0
21	15.9	52.5
20	16.7	55.1
19	17.5	58.0
18	18.5	61.2

※田植え機条間30cmの場合の計算



1㎡あたり約**16~18株**が目安です

POINT 2 土づくりをしましょう

耕す深さを15~20cmほどにすることで稲が根を伸ばしやすくなり、倒伏しにくくなります。また、ケイ酸資材を施用することで水稻の光合成を促進したり、登熟期が高温になった年でも葉から水分の蒸散を適切に行い稲の温度を下げるができます。

ケイ酸入り土壌改良資材の例

とれ太郎

3~4月頃に
60~80kg
/1反(10a)
散布しすぎ込む。



乳白粒

登熟期前半に発生しやすい



基部未熟粒

登熟期後半に発生しやすい



背白粒